



# 交通事故、防ぐのは

## あなたの「心」です

リポーター 小畑公悦 (上四羽出)

毎日のように目にする交通事故の記事。全国の交通事故死亡者は、平成元年から四年まで四年続けて一万人を超えました。一万人といえば、ちよつとした町の人口に匹敵する数です。その命の重さは、どれぐらいなのでしょう。私も二人の友人を事故でなくしていません。被害者はもちろん、加害者にも悲劇をもちたらず交通事故。この季節、特に多くなる交通事故を少しでも減らしたいと思ひ、大館警察署の伊藤次男交通課長から事故防止策について伺ひました。

### 犠牲者、4年続け 1万人を超す

▽全国の交通事故による死者数は？

四年十一月末現在で一万三千七十六人です。前年同期に比べ、三百七十一人多く、一日に約三十人が亡くなっていることになりました。また、交通事故による死者として記録されるのは、事故発生から二十四時間以内に亡くなった人だけです。発生から二十四時間を経過して亡くなった人は統計外になりますが、その数も加えると、交通事故による死者は出ている数字より二割

以上増えることとなります。

大館署管内では、四人が死亡、二百七十一人がけがをしていました(十一月末現在)。前年同期に比べ、死者は減っていますが、けが人と件数は増えています。

▽事故が増えている背景は？

まず第一は、免許人口の増加です。これによって自動車が増え、事故が発生する確率が高くなっているのです。自動車といへども、扱ひ方によっては銃砲と同じで凶器になります。そのため、運転に適正な能力を持つと認められた人に免許が与えられているのです。運転者は、「免許を与えられた」という責任の重さを忘れずに運転してほしい

ものです。

第二には、高齢化社会になってきたことが挙げられます。お年寄りが、交通ルールを無視して交通量の多い道路を横断、はねられるケースが増えています。

第三は、生活の夜型化が進んだことです。勤務体制の多様化、コンビニエンスストアやカラオケボックスの普及などで、夜、

夜は視界が悪く、歩行者や自転車の発見が遅れてはねてしまうというパターンが多いです。夜歩くときは、運転者に存在が分



事故防止策について熱心に質問

かりやすいよう目立つ服装をしたり、靴に反射シールを張ったりすることが、事故を防ぐのに効果的な方法でしょう。また、自転車の無灯火は非常に危険ですから、ライトは必ずつけるようにしてください。

▽事故の特徴は？

二十五歳未満の若年層の事故が多いこと。お年寄りがはねられる事故が多いこと。飲酒・暴走などの無謀運転による事故が多いこと。また、シートベルトを着用していない運転者の事故が目立っています。四年の大館署管内の重大事故は、これらがすべて当てはまります。

### 冬のドライブ

#### TPOを考えて

▽スタッドレスタイヤ時代に入りましたが、どの点に注意して運転すれば良いでしょうか？

去る十一月下旬の降雪では、路面がアイスバーン状態となりスリップ事故が多発しました。交差点やカーブでの事故が目立ちました。

まず、アイスバーンなのか、圧雪かなどの路面状況と、カーブや交差点などの道路状況を的確に把握することが必要です。そして、タイヤの性能を過信せず、適切な運転をすること。つまり、T(時)P(場所)O(場合)

に応じた運転を心掛けることですね。

▽交通事故を減らすのに必要なことは？

まず、運転者が安全に対する認識を深めることです。家庭や地域、職場などで、日ごろから交通安全に対する心構えを話し合うことが効果的でしょう。

また、人として大切な、思いやりや優しさを運転マナーにつなげてほしいと思います。

それと、シートベルトは必ず着用してください。シートベルトは、運転者と同乗者の身を守るだけでなく、運転者の安全意識の表れでもありますから。

× × × × ×

ひととおり取材を終え外に出ると、大館署の駐車場にあった事故車が目に入りました。ハンドルの変形具合、フロントガラスの破損状態から、事故の重大さが伝わってきました。人が乗っていた、と思うと、運転者の一人としてぞつとしました。

車のハイパワー化、装備のハイテク化が進んでいます。しかし、運転するのはあくまでも人間なのです。ドライバー自身が「進化」していかなければ、一人も犠牲は無意味になってしまいます。市民一人ひとりが、地域や家庭、職場で、交通事故の根絶を新年の抱負に掲げてほしいと思います。